

第7回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2020年10月29日(木) 19時～21時
- ◇方法 Zoomを用いたオンライン研修
- ◇参加者数 石田・三木・山方・吉田・河野・中澤敦・圓山
北・上田・下原・福井(学生)
大西・太田・中澤(奈良教育大学) 計14人

◇内容

1. 授業構想案の検討

(1) 気候変動を自分事に(下原さん:英語4回生、高校第2学年英語科)

- ・英語科としての目標とESDの目標を設定した。
- ・英語のリスニングの力の育成 段階的に→全体の概要
- ・単元終盤に英語でのコミュニケーション活動
- ・気候変動に対する自分事化 貢献したい思いと責任感の育成
- ・学生による気候変動に関するストライキ行進を2回見た。それに感動したのがきっかけ。
- ・2019年9月の国連での演説が有名
- ・何度も聞けば、概要は理解できるスピーチである。
- ・責任性を自分事化し、自分の行動に責任を持って欲しい。
- ・世代間の公正 次の世代のことも考えて行動できるように
- ・ストライキ行進のボードに書かれている言葉から内容に気づかせる。
- ・彼女はどんな気持ちで話しているのか?簡単な英語で答えさせる。
その理由をだいたい理解できることが目標。
- ・特定の情報を見つけられる力

気候変動に関する穴埋め問題に取り組みさせる。気候変動による悪影響について意見交換。

英単語の確認

身近に感じている問題を出し合う 世界の取り組み「パリ協定」の紹介

【詳細まで理解できる力】

スピーチに関する正誤問題の回答

スピーチのスク립トと日本語訳を配付

気候変動を抑制するために自分たちにできることを具体的に考えてみよう。

英語でアイデアを出し合う。英語でエコビンゴを作成する。

エコビンゴ達成のための行動化を促す

- 使うことのできる英語になっている。
- エコビンゴは日常につながっているのでグッド。
- 英語と日本語の混在も問題ないだろう
- 1～2時間目は英語科らしいが、それ以降は社会科っぽい。
- この授業の位置づけ:リスニングがメインの単元 表現や単語はピックアップして使用できるようにしてもらう。 英語コミュニケーションII
- 翻訳に関わる授業
- グレタさんのスピーチはインパクトがある。聞き取りやすい。

- 終盤：日本の学生との違いについて考えるきっかけにするのもよいかも
- 留学時の写真を使うのはよい。
- グレタさんの表情に着目させることで彼女の思いに迫る
- しゃべりたくなる場面設定も大切
- How dare you ? で始まる意見表明もあっていいかも。
- リスニングだけでなくコミュニケーションにも踏み込んで欲しい

(2) 「権力を握った貴族たち」 中学2年生社会科歴的分野・北君

坂上田村麻呂は東北地方の文化に大きな影響がある。例：青森ねぶたまつり

しかし、田村麻呂は青森には行ってない。征服者をたたえるのもおかしい。

征服者側の歴史と被征服者側の歴史があることに気づかせる。

歴史を踏まえた現在の文化やアイデンティティの在り方を考える

桓武天皇側による蝦夷征伐 拠点は青森にはない→青森には来ていない→青森ねぶたまつりの由来は疑わしい

征服された蝦夷側の人たちが征服者を称えるという理解しがたい行動

歴史が事実よりも伝説して伝えられることで、地域のアイデンティティに大きな影響を与えている。

地域アイデンティティに対する歴史的事実、伝説の影響。

立場と歴史の関連に気づかせる。

歴史への多面的な見方を育てる

沖縄に残るアメリカ言葉、風習。

- 社会科として成立しているのか：何を学ばせるのか考えさせるのかを明確にするといいかも。
- 目標と内容と方法で授業は構成されている。
- 現地住民をオニとしてとらえる捉え方
- 目標の明確化
- 蝦夷側の意見を考えさせるのは、社会的見方考え方を育成する上でよい。
ただ、資料不足であるのは社会科として難しい。
- 史実に基づくことが重要だが、その事実さえあやしい。
- 社会状況が社会的事象や人物に対する評価を大きく変える。
- 歴史そのものを考える教材としてはよい。なぜ、歴史を学ぶのかという導入でつかえるのでは。

(3) 地域資源を活用した学びの実現に向けてー学校と地域が連携する有効性ー

中澤敦子：近畿環境パートナーシップオフィス

- 具体的考察がほしい
- 写真だけではわからないので、キャプションも必要。
- 今後の方向性も示してほしい。
- 外部の人に投げるのではなく、創り上げていくというのがいい。育てたい子どもの姿（単元の目標）の共有が重要だと思った。
- 外部の人とつながる方法も紹介してほしい。

今回は、11月26日（木）19時からオンラインで開催します。内容は指導案の検討（現職教員）です。